

自治体、産業界、大学等の強みを活かした連携体制

私立大学等改革総合支援事業タイプ5（選定：平成29年度）

豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム



中京大学

取組のポイントや補助効果

- ◆自治体、大学等のリソースや専門分野の整理による強みを活かした連携体制
- ◆コンセプトの明確化による小規模で実質的な地域連携

愛知県名古屋市に法人を置く中京大学は11学部18学科、9研究科、約12,500人の学生数。「心理学部」、「工学部」、「スポーツ科学部」など幅広い分野の学びを提供し、すべての都道府県出身者の学生が在籍している全国型の総合大学である。そのため、多様な個性が集い、学生たちの生み出す大きな力が大学の魅力といえる。

キャンパスは名古屋駅から約25分、交通アクセスの便利な「名古屋キャンパス」、日本陸上連盟公認の走路を持つ競技場や日本初のフィギュアスケート専用の室内スケートリンク、日本サッカー協会第1号公認人工芝サッカー場などが整備されている「豊田キャンパス」の二つのキャンパスで事業を展開している。

運営母体の学校法人梅村学園は2023年に創立100周年を迎える。教育研究環境を充実させ、学園のさらなる発展に期するため、二つのキャンパスの整備に着手している。大学では長期計画「NEXT10」に基づき、教育の質を高める施策を実施するなど、さまざまな角度から新たな時代に挑戦する大学である。

取組の目標・目的

豊田市と大学間の連携と協力体制をさらに強化し、各種の取り組みについて相乗効果を

得ることを目的としてプラットフォームを形成している。

大学等の高等教育機関のリソースを活用し、地域の課題解決のために、プラットフォームとして12の課題を設定し、地域の高等教育の課題解決と豊田市の将来計画である「第2次地域経営戦略プラン」、豊田市開催の「ラグビーワールドカップ2019™」に向けて人と地域が共に育ち合う環境づくりに寄与することを将来ビジョンとして掲げている。

豊田市には、大学4校、高等専門学校1校が所在し、そのうち1校は豊田市にキャンパスを置く学部の学生募集停止を発表していることから当大学、愛知工業大学、豊田工業高等専門学校、日本赤十字豊田看護大学の4校でプラットフォームを形成した。これらの4大学等は幅広く六つの学問分野を有し、「ものづくり」の拠点である豊田市において、「工学」、「情報」分野が充実していることが特長である。また、プラットフォームには、看護学分野を持つ大学があり、地元の医療施設等への就職促進と地域医療現場のさらなる充実を図ることが可能となる。さらに、プラットフォーム形成大学等の半数である2校が健康とスポーツ分野を有しており、地域住民の健康とスポーツの促進に寄与することを目指している。

プラットフォーム形成当初は、期間内に産業界の参画を得ることはできなかったが、平成30年9月から、「一般社団法人ツーリズムとよた」が加わり、観光をはじめとする地域振興の活性化の強化が期待される。

当大学では建学の精神を「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」と掲げており、競技スポーツ力を高めるためだけではなくスポーツマンシップを重視している。スポーツマンシップは社会人や国際人としても大切な要素であり、汎用の力の育成につながっている。また、大学の長期計画では国際化による異文化理解等を基本方針として盛り込んでおり、プラットフォームの活動は大学の建学の精神や計画に沿ったものである。

取組に至る背景や問題意識

少子高齢化が進む中で、豊田市において今後、地域社会を活性化し魅力ある地域にしていくことが大きな課題となっている。特に高

等教育機関である大学等においては、今後18歳人口の急速な減少によりさまざまな影響が予測され、その対応が喫緊の課題である。

プラットフォーム形成以前から当大学においては豊田市に対する問題意識や協力体制はあったが、高等教育機関としてのリソースを十分に還元できていないとの認識があった。各教員が個別に豊田市や企業との連携は行っていたが、それを大学組織として展開し、さらなる連携を進めていく必要があると考えている。例えば豊田市を中心としたスポーツ教室の推進、国際的なスポーツ大会への大学生ボランティアの派遣、豊田市の製造業との連携など、社会連携活動を大学の長期計画の中心事項として掲げており、長期計画と方向性が一致していたことも取り組みに至った背景といえる。長期計画をより実質的なものとし、大学での計画をプラットフォームの取り組みの一環として推進していく方針である。

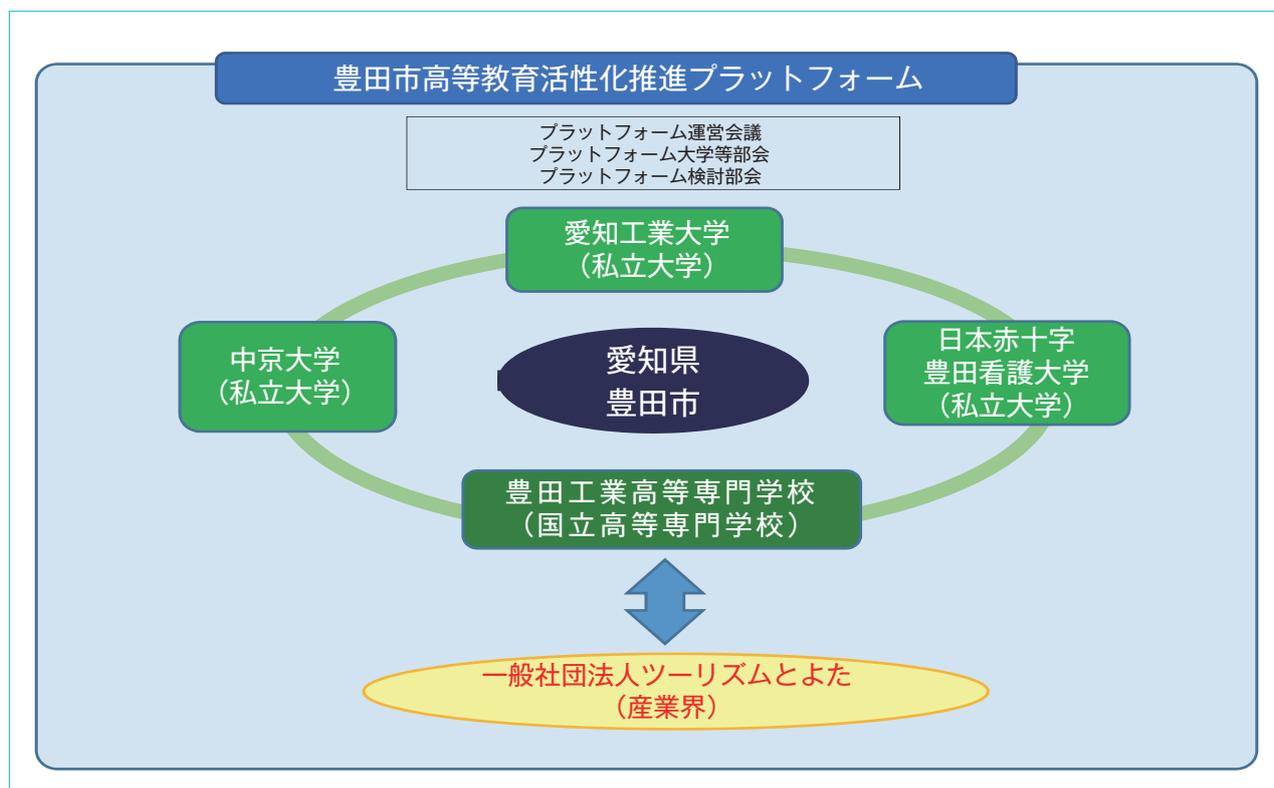


図1 プラットフォーム連携体制

取組内容

プラットフォームの取り組みは、豊田市の計画から4大学等の学術分野マップを活用して、以下の12課題を設定した。各大学等の役割については学部学科構成を考慮し、主担当である幹事校を決めている。

- (1) 郷土愛の醸成
- (2) グローバル意識の醸成
- (3) 地元就職の促進
- (4) 健康意識の醸成
- (5) 防災意識の醸成
- (6) 環境教育の推進
- (7) ボランティア活動の推進
- (8) 地域学習支援の推進
- (9) ものづくり事業の更なる展開
- (10) スポーツ活動の促進
- (11) 生涯学習の推進
- (12) プラットフォーム形成組織の連携強化

今回は中京大学が幹事校である「(2) グローバル意識の醸成」と「(10) スポーツ活動の促進」及び、他大学が幹事校として実施している豊田市の地域特性としての課題である「(4) 健康意識の醸成」について話を聞くことができた。

「(2) グローバル意識の醸成」においては、ラグビーワールドカップ2019TM豊田市開催を見据え、フェスタ等の各種イベントにおいて会場案内等の通訳ボランティア活動を通じて、学生のグローバル意識を醸成する取り組み等がある。

「(10) スポーツ活動の促進」における取り組みの特徴的なものは、「MIRAIへつなぐ夢の教室in豊田」の実施である。この取り組みは、中京大学、豊田市、トヨタ自動車、日本サッカー協会の産官学連携事業として実施しており、アスリートが小学校を訪れ、夢を持つ大切さ、努力、チームワークの必要性を伝えるものである。

「(4) 健康意識の醸成」については、日本赤十字豊田看護大学が幹事校であり、豊田市の山間部での高齢化を問題視している。山間部では大きな医療機関が遠方にあることから、災害時に孤立する可能性がある。また、山間部では医療機関、医療従事者の数も限られており、今後のさらなる高齢化に向けて、十分な支援を行うことが困難となることも考えられる。そのため、高齢者の介護が必要とならないような未然の対策として、高齢者の体操と運動の知識についての公開講座や施設開放等を行う。市民の健康意識の向上について自治体と連携して豊田市全体の健康意識を醸成する。

これは、都市部と山間部からなり、面積の大きい豊田市という地域の特性から生じる課題である。

実施体制

プラットフォームにおける協議及び運営を図2の体制で推進する。ビジョンや目標として設定した12課題のうち、各大学等の特色を生かして推進する9課題については、検討部会を設け幹事校が積極的に推進する。残りの三つの課題（郷土愛の醸成、ボランティア活動の推進、プラットフォーム形成組織の連携強化）については、共通課題のため個別の検討部会ではなく運営会議にて推進する。

取組後の変化

豊田市と豊田市近隣の大学とは個別での包括連携協定の締結や大学等連携協議会という地域で連携する枠組みは存在していたが、定期的な情報交換を行っている程度のつながりであった。

そのため、地域連携として十分に機能しているとは言い難い状況であったが、私立大学等改革総合支援事業の明確な趣旨のもと共同

事業等の実施により、実質的な自治体、産業界を含めた大学間の横のつながりが強化された。

また豊田市と各大学の教員や各部署、職員レベルの個別のつながりは多かったが、豊田市が把握できていない部分もあり、地域連携体制を整理する機会となった。



主要組織名称と目的

組織名称	目的	委員・担当者
運営会議	豊田市高等教育に関する中長期計画の策定、実施の推進	プラットフォーム全参画団体
運営会議事務局	上記運営会議における協議の効率的且つ定期的な運営（共同運営）	豊田市（経営戦略課） 愛知工業大学 中京大学 一般社団法人ツーリズムとよた
大学等部会	プラットフォームを形成する大学等間の定期的な協議	愛知工業大学 中京大学 豊田工業高等専門学校 日本赤十字豊田看護大学
連携協議会	運営会議実施事項の報告	プラットフォーム全参画団体

検討部会と幹事校

	愛知工業大学	中京大学	豊田工業高等専門学校	日本赤十字豊田看護大学	豊田市
グローバル意識の醸成に関する検討部会	○	●	○	○	○
地元就職の促進に関する検討部会	○	○	●	○	○
健康意識の醸成に関する検討部会	○	○	○	●	○
防災意識の醸成に関する検討部会	●	○	○	○	○
環境教育の推進に関する検討部会	○	○	●	○	○
地域の学習支援の推進に関する検討部会	○	○	●	○	○
ものづくり事業の更なる展開に関する検討部会	●	○	○	○	○
スポーツ活動の促進に関する検討部会	○	●	○	○	○
生涯学習の推進に関する検討部会	○	○	○	●	○

図2 プラットフォーム実施体制

●：幹事校 ○：委員

成功のポイントや苦労した点

従来から豊田市とは、大学等連携協議会という地域及び大学間連携の枠組みが存在して

いたことや、中京大学においては、スポーツの分野で強い連携を組んでいた背景もあり、初めてプラットフォームの形成について相談した時点から、前向きに検討していただき承諾を得ることができた。他大学においても、豊田市のために何かできないか検討していたところであり、タイミングも良かった。豊田市という小さな単位で考えることで、各機関が当事者意識を持って取り組むことができ、各種事業の推進や情報共有をスムーズに、そしてスピード感を持って行うことができた。

私立大学等改革総合支援事業の選定の有無にかかわらず、豊田市や地域の大学との連携を強めていく方針で話を進めていたことも成功のポイントである。

プラットフォームの12の課題に対して、取り組みは50と、数多く設定しているため、目標数値管理や進捗状況管理において、各大学等では取り組みを実行する担当部署との連携に苦労した。今後どういった仕組みで担当部署と連携するか検討が必要である。

今後の課題・展望

プラットフォームの形成から1年程度しか経過していないため、現状としては当初の目的と目標を達成することが課題である。これまで以上に高等教育のリソースを活用し、地域連携を強化して、地域のさまざまな問題に取り組んでいきたいと考えている。

また、プラットフォームの各大学等の強みや特色を生かした地域貢献、教職協働による組織的な連携を推進する。それには特に職員が大学運営に関する高い専門知識やマネジメント力（企画立案力、折衝力等）、実行力を身に付けることが必要なため、SDについても積極的に展開していきたいと考えている。